



育ちの芽

副園長 奥村 綾

2学期始まり

6月後半より本格的にスタートした令和2年度。子ども達がようやく園生活のリズムをつかみかけた頃に、長い夏休みに入りました。そして、2学期が始まり、「早く幼稚園に行きたかったー」と満面の笑みで登園する子もいますが、9月の後半になった現在も、まだまだ登園を渋る子ども達も多く見られます。コロナ禍で、家で過ごす時間が多い中、保護者の皆さんもさまざまな工夫をされ、子ども達のおうち時間が充実している様子が伺えます。

うきうきタイム

うきうきタイムでは、まだまだ水遊びが楽しい季節、氷を作ったり、石鹸で泡を作ったり「ひんやり」「ふわふわ」「つるつる」と感触遊びを楽しんでいます。肌で様々な感触・感覚を感じる事で五感を使うきっかけになり遊びへの好奇心にもつながっていきます。白い泡で楽しんでいると「泡に色をつけてみたい。」と絵の具を混ぜて色混ぜ遊びになりました。「氷、どこで作れる?」「すぐにはできひんで。」「どうやって作るの?」と子どもの会話から氷の不思議に出会っている様子がわかります。子ども達から出てくる「なぜ?」「やってみたい。」を遊びに取り入れながら過ごしています。

現在の様子

本園では、各行事や日々の活動など、子ども主体で考えていくことを大切にしていますが、友達との関わりや、クラスでのさまざまな経験など、1学期からの十分な積み重ねがあった上で、自らの力で考えていく力が身についていくものと考えます。今年度に関しては、コロナ禍で、さまざまな制限(密を避ける話し合い時間の短縮等)がある中、自分の思いや考えを出し合う機会も少なく、また、クラス単位での活動や遊び等もこれから深まっていく段階です。

先日、各学年クラスで設定しているコーナー遊びの画像をれんらくアプリにて送信しました。学年やクラスによってさまざまですが、どれも子どもの育ちを考えながら、子どもの遊びの様子から設定したものです。今年度は、保護者の皆さんに、園での子ども達の様子を直接見ていただける機会がなく、クラスだより等でお知らせで、なかなか保護者の皆さんと子どもの育ちを共有できていませんが、11月に少人数制のグループ参観を予定していますので、その際には、今回配信した[子どもの育ち]や[幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿]を参考に、子ども達の遊びの様子や育ちをご覧いただければと思います。

運動会に向けて

9月2日より、「毎日体操服で登園してください。」とお知らせしたところ、年少児の数名が、「今日は運動会!!」と張り切って登園してきました。例年は、5月より週1回運動の日があり、体操服を着て登園する習慣も身につけているのですが、今年度、初めて体操服を着て登園した年少組さんは、「先生早く運動会しようよ」「よーいドンしよ」と園庭に出たり、降園時に「今日はどうして運動会しなかったの?」という子がいたり、中には、昨年のアンパンマンのプログラムを覚えていて、中学校に行ってかけっこができると思い、幼稚園に着いた途端、中学校の方を指さし「あっちに行くー」と大泣きする子もいて、初体操服の日=運動会と思い込む子ども達の姿が印象的でした。

子ども達は意欲的に運動会の活動に取り組んでいますが、さまざまな制限があることから、内容的にも時間的にも『子ども主体で考えていくこと』に重点をおくよりも、子どもの思いを取り入れながら、

『先生と共に作り上げるもの』として、先生達はさまざまな工夫をしながら進めています。

年少組は、初めての運動会ということで、雰囲気を知るため、昨年の運動会のDVDを鑑賞しました。本来ならこの時期、4クラス集まる事にも慣れていますが、今年度は2クラスずつホールに集まる経験も初めてで、とても嬉しそうでした。入場のシーンでは、自然と手拍子をする姿も見られ、目をキラキラさせながら最後まで画面にくぎ付けでした。リズムの振り付けは、部分的に子ども達が考えられるよう各クラスで意見を出し合いました。「手でハートを作る」「ウルトラマンのポーズ」「まるを作る」「動物がいい」など、子ども達のアイデアがいっぱい！踊りにクラスの個性が出ています。

年中組のパラバルーンでは、本来は、曲のサビの部分の技を、学年で集合し意見を出し合いながら、子ども達が決めるようにしていましたが、今年度は、集まる時間を短縮し、各クラスで技を決めた後、ホワイトボードに掲示して、少人数で他のクラスに伝えに行ったり、園庭で他のクラスがしている様子を見て、技を伝え合ったりしています。「♪虹がかかったよー」の歌詞の部分は、子ども達からパラバルーンで「虹を作りたい!!」という意見が出ました。みんなで集まって虹の形を作るとき、真ん中を先生が持ち上げるため、高い位置で届かない子ども達は、「じゃあ、雲を作る!」「周りでキラキラする!」等と言いながら、それぞれ表現する姿が見られました。また、毎回動画を撮影し、1回ごとにクラスで確認する時間を作り「虹がバナナみたいになってる」「ちょうちょうの形が変」等と、子ども達自身が課題点に気づいて取り組んでいます。

年長組は、『最高学年として行事を作り上げようとする』ことにねらいをおき、一人一人が意識して取り組めるようにしています。

リレーに関しては、昨年度、年長組がリレーに取り組む様子を見ているので、自分たちで作戦を立てたり、走る順番を決めたりし、意欲的に取り組んでいます。中には、リレーに参加したくない子もいますが、1回目、2回目と行ううちに、子ども同士で、「なんで走るの嫌なん?」「何番やったら走る?」などと声をかけ、子ども主体で進めていけるよう先生達は見守っています。子ども達だけで取り組むリレーには、幼児期の子どもにとって必要な育ちがたくさんあります。子ども達のさまざまな気持ちの葛藤やこころの成長など、保護者の皆さんも一緒に見守っていただきますようご協力よろしく申し上げます。

子どもの成長

預かり保育の時間に保護者の方がお迎えに来られた時、園庭で遊んでいる子どもの帽子がないことに気づきました。その子が言うには、「後ろから誰かがとって、どっか行った」ということで、預かりの先生が周りで遊んでいた子に聞いたり、辺りを探したりしましたが、その時は見つかりませんでした。結局、幼稚園のブロック塀の向こう側に落ちていました。次の日、預かりの各クラスで、“帽子を取られた子の気持ち”や“誰かが投げたかもしれないこと”など今回の出来事を話し、みんなで考える時間を持ちましたが、結局なぜ塀の向こうに帽子が落ちていたかはわかりませんでした。

その経緯を保護者の方にお話しし謝った際に、

「帽子がなくなった時『どうしたん?一緒に探したるわ』と周りにたくさんの子が集まって探してくれたことにびっくりし、すごく嬉しかった。優しい気持ちをもった子ども達なんだなと。自分の子もそんなことができるのかなと思いました。嬉しかった気持ちを我が子に伝えたいと思いました。また、先生からこの出来事について子ども達に話してもらうことで、今回帽子がなくなったことから、子どもってこんなふうにして成長していくんだなと実感することができ、うちの子には悪いけど私は良かったと思いました。」

このような出来事を肯定的にとらえ、受け止めてくださったことに感動しご紹介させていただきました。

幼稚園では、日々の出来事一つひとつが、子どもの育ちにつながっています。嬉しい事、楽しい事、時には辛い思いや、悔しい思いなど「実体験」をすることで、生きる力を持った人間性豊かな子どもに育ちます。

今後も子どもの育ちにつながる保育環境を整えていきたいと思っております。